

サッポログループの統一IT基盤を 従量課金型プライベートクラウドサービスに移行

課題

グループIT基盤の全体最適化とBCP※1対策を実現したかった

※1 Business Continuity Plan

解決

正副二つのデータセンターに日立の従量課金型プライベートクラウドサービスを導入

効果

DR※2対応とIT運用の標準化、IT投資の最適化を実現

※2 Disaster Recovery

グループIT基盤の全体最適化をめざして

サッポロ生ビール黒ラベル、エビスビール、ポッカレモンなどのブランドで親しまれているサッポログループは、「国内酒類」「国際」「食品・飲料」「外食」「不動産」の5事業を通じて、世界のお客さまに潤いと豊かさを提供しています。その中でサッポログループマネジメント株式会社（以下、サッポログループマネジメント）は、グループの経営基盤となる共通機能（人事・総務・経理・IT・調達・物流）に関する業務改革・コスト改革を策定し、グループマネジメントとシナジー創造を実現する役割を担っています。

サッポログループマネジメントは2017年6月、日立の従量課金型プライベートクラウドサービスを活用し、短期間でグループIT基盤の全体最適化を実現することに成功しました。

「データセンターの老朽化にともない、それまでバラバラだったITインフラの標準化を図るとともに、環境変化に柔軟に追従できるクラウドの活用、事業継続性の強化に向けたDR環境の構築をトータルに行う

社内プロジェクトを立ち上げました。2015年夏ごろのことです」と振り返るのは、グループIT統括部 シニア イノベーションエキスパートの駒澤 正樹氏です。

当時、サッポログループのデータセンターは事業会社のシステムを統合したこともあり、サーバをはじめ、OSやミドルウェアのバージョンも最適化されておらず、運用負荷が増大し高コストな構造になっていました。また、1センターで構成されていたため、東日本大震災のような広域災害発生時のリスクを十分にヘッジできている環境とはいえ、こうしたBCPの課題をクリアできる新たなデータセンター環境が求められていたのです。

ITインフラとサービスの一体的な提供を評価

「クラウドサービスを前提に複数ベンダーのソリューションを検討しました。最終的に日立さんを選んだのは、多くの企業へのプライベートクラウドの導入実績と、日立のサーバへの信頼性、われわれが使い慣れた統合システム運用管理JP1も含めて、ITインフラとサービスを一つの会社が提供してくれる安心感を評価したか

らです」と語るのは、グループIT統括部イノベーション エキスパートの布施川 貴久氏です。布施川氏は、日立が提案したサービスメニューの内容にも言及。「パブリッククラウドではどうしても、選択できるメニューと現場のニーズに大きなギャップが生じてしまいがちです。その点、日立さんのサービスメニューは当社グループのシステムや業務要件を考慮した、非常にバランスのよい内容に仕上がっていました。メニュー化されたサービスを利用すれば、IT運用の標準化とコスト構造を明確にした適切なIT投資のコントロールが可能になると判断したのです」と語ります。

新たなデータセンターはメインサイトが日立の岡山データセンター、DRに備えたバックアップサイトが東京都内に選択され、2016年初頭から段階的に400サーバの





サッポログループマネジメント株式会社

所在地 東京都渋谷区恵比寿4丁目20番3号
 (恵比寿ガーデンプレイスタワー37階)
 設立 2008年1月
 資本金 2,500万円
 従業員数 170名(2017年10月6日現在)
 事業内容 グループコーポレート機能およびサッポログループ共通業務



移行がスタート。現行サーバの運用・利用状況を考慮した移行計画の立案により、当初約2年の予定でしたが、2017年6月にはすべてのシステムとアプリケーションがクラウド環境で稼働を開始しました。

堅ろうなデータセンターによるDR環境の実現

「メインサイトとなる岡山データセンターは高レベルなファシリティとセキュリティに加え、岩盤も丈夫で地震や津波に強く、安心して基幹業務を任せられます。ふだんはコミュニケーション基盤や検証・開発環境に利用している都内のバックアップサイトにも日立さんの従量課金型プライベートクラウドサービスを導入し、将来のシステム完全二重化やDRを前提に、双方で同じ環境とサービスレベルを確保しました」と駒澤氏は説明します。

正副二つのデータセンターは日立の監視センターからリモート運用が行われており、24時間365日の監視・障害対応と、仮想環境構築の代行サービスが提供されています。

クラウド移行の重要なポイントだったITインフラの標準化については、使用するOSをサポート範囲内のバージョンのWindows®とLinuxに絞ることでシステム設計・管理の統一化とサポートの確保を図りました。高額なライセンス保守費がかかっていたデータベースサーバも最新クラスの大型サーバに集約することで、保守費の適正化とコスト削減を実現。さらに日立はクラウド運用の最適化を図るため、仮想環境のリソースやパフォーマンスをリアルタイムに可視化し、対処の必要があるサーバをレポートで随時報告した



サッポログループマネジメント株式会社
 駒澤 正樹 氏 布施川 貴久 氏

り、リソース増減計画の提案を行ったりするサービスも提供しています。

「これまで詳細に把握できなかった各業務システムリソースの稼働状況が可視化されたため、リソース不足によるパフォーマンス低下といった問題が生じる前に、プロアクティブな対応と施策が打てるようになりました」と布施川氏は評価します。駒澤氏も「今回はサーバ移行期間を短縮するため、従来環境を同じコア数の新サーバに移行しましたが、日立さんが用意したマシンの処理性能が想像以上に高いのに驚きました。当社のビジネスピークである夏を過ぎた時点で各システムの安定的な稼働状況が把握できたため、これから順次リソースの最適化を図っていきます」と、さらなるコスト削減効果に期待を寄せます。

一方、キャンペーンやピーク対応、新業務などで必要となるリソースの追加作業は、これまでサーバの調達やテスト・実装に約2か月かかっていましたが、申請からわずか5日で用意できるようになりました。プライベートクラウドならではのITインフラの柔軟性と機動力の向上が、サッポログループのスピード経営に大きな貢献を果たしています。

サッポログループの成長戦略を支えるパートナーとして

「今回は、当社の基幹システムを担当しているベンダーとネットワーク系ベンダー、そして日立さんという三つの企業が連携、協調しながらクラウド環境への移行を進めていった難しいプロジェクトでした。その中で日立さんにはしっかりとリーダーシップと総合的なプロジェクトマネジメントを担っていただき、トラブルなく新環境に移行できたことに深く感謝しています。これからも全体最適の観点から、価値ある提案やアドバイスを期待しています」と駒澤氏は語ります。

サッポログループの成長戦略を支えるITインフラの全体最適化と事業継続を、これからも日立は多様なソリューションとサービスで支えていきます。



お問い合わせ先・情報提供サイト

(株)日立製作所 産業・流通ビジネスユニット
<http://www.hitachi.co.jp/products/it/industry/solution/pcloud/>